

仙台市学校教育情報化推進計画				令和6年度 行動計画		令和6年度 進捗・評価	
項目	概要	令和9年度までの目標	担当課	教育委員会	学校	実績・課題	評価
基本方針1 児童生徒が、ICTを適切に使いこなし、生涯学び続けるための資質・能力の育成							
1ー(1) 情報活用能力の育成							
1ー(1)ー① カリキュラム・マネジメントによる体系的な育成	カリキュラム・マネジメントを充実させ、発達の段階に応じて、全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実していく。	A 市立学校が、情報活用能力に関する意識調査の結果をもとに、情報活用能力育成の年間指導計画を作成。	教育指導課 教育センター	情報活用能力に関する意識調査結果を学校へ展開し、それに基づいた情報活用能力育成の年間指導計画例の提示	拡充 □情報活用能力育成の年間計画の自校化 □デジタル化された教材も含めたみやぎ情報活用ノートの活用	・情報活用意識調査を実施し学校へ展開した。 ・ホームページで情報活用育成年間指導計画例や作成の仕方を提示した。また、教育課程訪問で、情報活用育成年間指導計画を作成しているか点検・指導を行った。	○
		B 市立学校が、教育用クラウドを日常的に活用(常時家庭での活用も含む)できる情報活用能力育成の年間指導計画を作成。	教育指導課 教育センター	モデルカリキュラム(年間指導計画)の内容を適宜見直し、各学校に周知	継続	・仙台版情報活用能力育成おすすめ単元表(小学校版、中学校版)の見直しを行い周知している。今年度の取組を基に、年間指導計画の自校化を教育課程訪問で指導している。	○
		C みやぎ情報活用ノートのデジタル化と、StuDX Style等を参考にした授業事例の普及。	教育指導課 教育センター	デジタル化5事例程度(みやぎ情報活用ノート)と、StuDX Styleの事例を、情報発信し学習eポータル等に登録	継続	・みやぎ情報活用ノートをロイロノートでデジタル活用できるようにした。授業づくり訪問で活用の使用した。	○
		D ICTとこれまでの実践の最適な組合せ事例の研究を行い、事例を発信。	教育センター	ICTとこれまでの実践の組合せ事例を発信する。	継続	・授業づくり訪問での実践を発信した。	◎
1ー(1)ー② プログラミング教育の推進	校種間の連携・接続を考慮して、学校で系統的にプログラミング教育を実施する。	A 市立学校で、系統的(教科等横断的)にプログラミング教育を実施。	教育指導課 教育センター	系統的(教科等横断的)に実践できるプログラミング教育の事例(小中学校全学年分)を収集する。	継続	□例示された指導案をもとに生成AIに関する授業を実施	○
		B 市立小中学校において、プログラミング教育やSTEAM教育を全学年及び全教科等で実施。	教育指導課 教育センター	プログラミング教育やSTEAM教育の全学年で実践できる事例(プログラミング検定等)を紹介する。	拡充	・令和5年度に学校情報化研究委員会のプログラミング教育部会で取りまとめた実践事例を教育センターホームページで紹介した。STEAM教育に関する実践は、中山中学校と地域の商店街が連携した取り組みを紹介した。地域創生をテーマとしたCMを作成を通じた教科横断的な取り組みの実践をGIGAスクールサポートサイトで紹介した。	○
		C 毎年、プログラミング教育やSTEAM教育の事例(プログラミング検定等)を作成し積極的に発信。	教育指導課 教育センター				
1ー(1)ー③ 学校・家庭・地域における情報モラル教育・情報セキュリティ教育の推進	児童生徒の情報モラルの実態を把握し、家庭等と連携しながら情報モラル教育や情報セキュリティ教育を進める。	A 児童生徒の情報モラルの実態を把握し、学校と家庭の両方で効果的に取り組める情報モラル教材等を活用して、すべての学校で実施する。	教育指導課 教育センター	実態把握に基づいた各校の情報モラルの教育計画を作成する(情報活用能力育成の年間指導計画)。	継続	・今年度の取組を基に年間指導計画の自校化を教育課程訪問で指導している。また、教育センターホームページに情報活用能力育成年間指導計画の例や年間計画の作り方について提示している。	○

		B 高度に発達した情報化社会に積極的に関わろうとする態度を身に付けるための取組を研究し成果を普及する。	教育指導課 教育センター	生成AIに関する授業実践事例を各学校に周知し、実践を進める。	新規		・学校情報化研究委員会の情報リテラシー部会にて校務の生成AI活用について研究し、今後発信していく。 また、GIGAコミュニティサポート事業で生成AIの話題が多数投稿され、活用の推進につながった。	○
		C 市立学校で、情報セキュリティ教育の実施をする。	教育指導課 教育センター	情報セキュリティ研修(4月)を踏まえ、セキュリティ教育について事例を紹介する。	継続	□セキュリティ教育の実施	・情報セキュリティ研修(4月、12月以降)を実施し、学校情報セキュリティに関する意識を高めた。また、生成AI研修やICT活用研修により、活用におけるセキュリティ面の周知している。	◎
基本方針1 児童生徒が、ICTを適切に使いこなし、生涯学び続けるための資質・能力の育成								
1-(2) 指導・学習のためのICT活用								
1-(2)-① 個別最適な学びの推進(指導の個別化、学習の個性化)	学習改善に役立てていくため、ソフトウェア等の利活用等を通じて個別最適な学びを推進する。	A 教育用クラウドやデジタルドリルなどの各種ソフトウェア等、せんだい電子図書館の利活用の普及をする。	教育指導課 教育センター	・教育用クラウドやデジタルドリルでGIGAを推進させるための検証及び情報発信を行う。	拡充	□デジタルドリルの効果的な活用 □授業支援ソフトウェアの効果的な活用 □せんだい電子図書館の利活用推進 □リーディングDXスクールの実践事例の周知と事例をもとにした授業実践 □STEAMライブラリーの活用推進	・デジタルドリルの活用状況を確認し状況を把握したり、GIGAコミュニティサポート事業で活用推進の情報交換を行っている。 また、学校情報化研究委員会教育データ活用部会では、navimaの学習データやSeTNの活用について研究し、発信をしている。	○
		B キャリア・パスポートの電子化(基礎資料の電子化も含む)を検討する。	学びの連携推進室	キャリア・パスポートの運用の事例収集(基礎資料の電子化も含む)と改善点の検討を行う。	継続		・国や県の動向も注視しつつ検討を進めている。	○
		C 個別最適な学びを推進するための研究する。	教育センター	デジタルドリルの効果的な活用について研修を実施する。	拡充		・教育データ活用部会にてnavimaの学習データの活用について研究、発信していく。	○
1-(2)-② 協働的な学びの推進	児童生徒同士の対話・考えの共有・協力を通じた学びなど、多様な価値を認め合い、新たな価値を創造する協働的な学びを推進する。	A 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に関する市内学校の取組事例を収集し発信する。	教育指導課 教育センター	・教育用クラウドや授業支援ソフトウェアでGIGAを推進させるための検証及び情報発信を行う。	拡充		・Googleアプリの活用状況を確認し、GIGAスクールサポートサイトで活用事例を配信している。授業づくり訪問での助言や各研修での事例等の紹介を行っている。	○
1-(2)-③ 探究的な学びの推進	地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、実社会での問題発見や課題の解決等に当たり、教科等横断的な視点に立った探究的な学びを進める。	A 教科等横断的な視点に立った探究的な学び(学習支援ソフトウェア等の利活用を含む)に関する市内学校の取組事例を収集し発信する。	教育指導課 教育センター	リーディングDXスクールの実践事例を横展開する(他自治体の取組も含める)。	拡充		・GIGAコミュニティサポート事業において、参加者が主体的に実践した事例や課題点、教育委員会からの助言を共有しながら実施することができた。	○
		B 単元の工夫、STEAMライブラリー等の利活用、副教材等のデジタルコンテンツ化の研究成果の普及をする。	教育センター	教科横断的な視点に立った探究的な学びについて、事例を収集する。	拡充		・校内研修や授業支援など中山中と川平小の教科横断的な取り組み(生活科・総合的な学習の時間)を支援し、実践事例をまとめた。	○
1-(2)-④ デジタル教科書・副読本の活用	学習者用・指導者用デジタル教科書について、効果的な利活用の情報を収集し発信するとともに、各種研修に活用していく。	A 学習者用・指導者用デジタル教科書について、効果的な利活用の情報を収集し発信をする。	教育指導課 教育センター	外国語・英語の学習者用デジタル教科書について、活用事例を収集・発信する。	継続	□外国語・英語の学習者用デジタル教科書の活用推進	・今年度採択となった教科書の「デジタル教科書」の活用方法を周知する予定である。今後、デジタル教科書活用推進に向けた研修を行っている。	○

		B 紙とデジタル教科書との最適な組合せ、副読本のデジタル化に関しての検証を行う。	教育指導課 教育センター		継続		・副読本のデジタル化を進めた。	○
1ー(2)ー⑤ 先端技術の活用	教員を支え教育の質を高めるツールとしての先端技術を効果的に活用していく。	A 防災や安全教育、自然や文化財等の学習教材のVR化を推進し、児童生徒の学びの充実を図る。	文化財課 危機管理局減災推進課 他	VR教材を作成し、実践校の授業事例を収集する。	継続	□VR教材の活用推進 (仙台GIGAスクールサポートサイトに掲載)	・仙台城のVR教材を作成し、出前授業で活用されている。 ・「せんだい災害VR」を運用し、防災訓練や研修会で活用されている。 以上のとおり、様々な検討がなされ、普及されている。	◎
		B 先端技術によるデータの整理や分析の研究成果を普及する。	教育指導課		-		-	-
1ー(2)ー⑥ ICT活用における健康面への配慮	文部科学省のガイドブック等を参照しつつ、児童生徒の健康について、関係機関と適宜連携しながら実態を把握し、留意事項の周知・啓発を行います。	A ICT機器の利用と健康に関する実態を把握し、留意事項の周知・啓発を行う。	健康教育課	児童生徒の健康面に配慮した上で、児童生徒が個々の必要に応じて端末を使えるように周知する。	継続	□目の健康について配慮した端末活用 □保護者への周知	・文科省通知「子供の目の健康を守るための啓発資料」を、学校への通知し、啓発を行った。	○
基本方針1 児童生徒が、ICTを適切に使いこなし、生涯学び続けるための資質・能力の育成								
1ー(3) 学びを保障するためのICTの活用								
1ー(3)ー① 災害時等に学びを継続するためのICT活用	災害等の学校教育への影響が避けられない状況にあっても、児童生徒の学びを継続できるように、普段から対面授業とオンライン学習を効果的に組み合わせた学習等を行うための研究を進める。	A 一定程度オンライン学習を組み合わせた授業を展開できるような事例を発信する。	教育指導課 教育センター	平常時から端末を持ち帰り、学習改善に役立てている学校の事例(指導計画)を周知・実践する。	継続	□オンラインを活用した家庭学習の週1回以上の実施	・端末活用状況調査において、休日の家庭学習における端末活用回数や活用方法(デジタルドリルや宿題等)について調査を行い、学校へ周知している。	○
		B 各学校において、普段の授業から一定程度オンライン学習を展開できる年間指導計画の作成及び実施をする。	教育指導課				・オンライン学習に応じた年間指導計画のあり方について検討する。	○
1ー(3)ー② 多様なニーズに対応するためのICT活用	オンライン学習教材等を活用した不登校児童生徒等への学習支援等に取り組む。また、外国籍など日本語を母語としない児童生徒等について、ICTを活用することにより、一層の教育の充実に向けた取組を進める。	A 市立学校に、不登校児童生徒等へICTを活用した学習支援等の事例を発信する。	教育相談課 教育センター	各学校が、多様なニーズ(不登校、日本語指導を要すること、あるいは特定分野に特異な才能を有することなどにより特別な支援が必要な児童生徒)等に対するきめ細かな支援のために、ICTを活用できるように取組を検討する。	継続	□不登校児童生徒等へのICTを利用した学習支援の推進	・他国からの児童生徒の支援では、翻訳機ボークの貸与し、通訳ができる環境を整備し、活用している。教室に入れない児童生徒の学びをサポートするため、オンライン授業の配信やデジタルドリルnavimaの活用を行っている。また、仮想空間メタバースの授業支援を行った。	○
		B 市立学校の日本語指導が必要な(外国籍など日本語を母語としない)児童生徒等について、ICTを活用した教育活動を普及する。	教育指導課					
1ー(3)ー③ 特別支援教育におけるICT活用	障害に起因する学習上または生活上の困難さを有する児童生徒が、1人1台端末等を等しく活用するために特別支援学校や特別支援学級で入出力支援機器の利活用等の取組を進める。	A 特別支援学校や特別支援学級での入出力支援機器の利活用事例や、有用なアプリケーションの普及をする。	特別支援教育課	各学校が、病気療養や障害等の個別のニーズに対するきめ細かな支援のために、ICTを活用できるように取組を周知する。	継続	特別支援学校 □入出力機器の効果的な活用	・教育課程研究協議会等で教員同士が活用事例について共有する機会を設定した。	○
		B 院内学級の設置されていない病院に長期入院する市立学校に在籍する児童生徒に対しても学習の機会を保障する。	特別支援教育課			特別支援学級 □個別のニーズに応じた1人1台端末の効果的な活用	①年度始めに「療養中等の児童生徒に対する学習保障事業」に関する通知を全市立学校へ発出。 ②学校管理のLTE機を活用した遠隔授業により学習機会を保障し、かつ出席扱いとする事例が増えている。	○

基本方針2 教員のICT活用指導力を高めるための支援体制の充実								
2ー(1) 教員に求められるICT活用指導力等の向上								
2ー(1)ー① 教員の資質の向上	ICT活用を前提とした授業づくりやプログラミング教育等の研修を充実し、教員のICT活用指導力を育成する。また、管理職への研修や、校内研修でリーダー的な役割を担うミドルリーダーへの養成的な研修を行い、情報活用能力の育成に関する内容を含めた校内研修の充実を図る取組を進める。	A. 教員のICT活用指導力チェックリスト等による現状把握と分析のもと、研修の計画と成果について公開する。	教育指導課 教育センター	教員のICT活用指導力チェックリストの結果に基づいて研修を企画する。	拡充	□ICTIに関する希望研修の積極的な受講 □研修内容の校内伝講	・教員のICT活用指導力チェックリストの情報を共有した。今後も、ステップアップ研修体系図の周知、活用を図っていく。	○
		B. ICT活用を前提とした授業づくりやプログラミング教育等の研修を充実する。	教育指導課 教育センター	各教科において、ICT活用を前提とした授業づくりやプログラミング教育等の研修を行う。	継続	□校内研修の充実 □訪問研修の積極的な受講	・ICT支援員によるプログラミング教材の支援や不具合の対応を行った。また、プログラミング教育研修やICT活用研修、授業づくり訪問での支援を行った。	○
		C. 教員の負担軽減を目的として、オンラインやオンデマンド形式での研修も開催する。	教育指導課 教育センター 他	教員の負担軽減を目的とした、オンラインやオンデマンド形式での研修を行う。(局内各課室)	拡充		・学校の授業だけでなく、校長等研修や事務研修などオンラインの活用が実践されたことで、速やか運用できる技術が身に付き、緊急時でも実践できるスキルが達成された。	○
		D. 毎年管理職への研修を実施する。	教育指導課 教育センター	学校教育情報化に関連する管理職研修を実施する。	継続		・管理職としてのGIGA推進の意識を高められた。	◎
		E. 校内研修でリーダー的な役割を担うミドルリーダーへの養成的な研修を毎年行う。	教育指導課 教育センター	GIGAの推進を担うミドルリーダーへの養成的な研修を実施する。	継続		・GIGAスクール担当者研修や中堅教諭等資質向上研修1など、ICT活用についての研修を取り入れ、校内のリーダーの育成を図った。	◎
		F. 情報活用能力の育成に関する内容を含めた校内研修の充実を図る取組を進める。	教育指導課 教育センター	校内研修の充実を図る取組の事例を紹介する。	継続		・「教育の情報化に関するアンケート」で教員の情報スキルの状況を把握した。 ・教育課程訪問や授業づくり訪問などで、授業研究の状況を把握し、指導助言を行った。また、GIGAスクール担当者研修では、様々な事例について情報交換を行い、校内研修で活用できるようにした。	◎
		G. 支援を必要とする学校への研修や授業づくりに関する訪問支援を実施する。	教育指導課 教育センター	支援を必要とする学校への研修や授業づくりに関する訪問支援を実施する。	継続		・GIGAコミュニティサポート事業により授業での端末活用などのオンラインでの支援を行ったり、OJTサポート訪問やGIGAスクール端末活用研修での訪問支援を行っている。	○
2ー(1)ー② 人材の確保等	本市で教育実習生を受け入れる際も積極的にICTを活用する等、広く教員のICT活用指導力向上に資するよう取り組む。	A. 教育実習生等にICTを活用した授業や活動を積極的に行う。	教職員課	教育実習生等に、ICTを活用した授業や活動を積極的に実施する。	継続	□教育実習等で、教育用クラウドサービスを活用した授業について指導	・教職員課が全実習生の臨時アカウントを発行・配付している。	◎
		B. 高校の情報科への対応のため、教員研修を充実する。	教育センター 高校教育課	高校の情報科への対応のため、教員研修を充実する。	継続	□情報収集と研修の受講 □授業実践	・教育課程研究協議会で情報提供を行った。指導要領が3年目を迎え、完成年度となり改訂が行われる。	◎
2ー(1)ー③ ICT支援員などの人的支援	ICT支援員について、効果的な利活用方法を学校に周知していく。また、学校向けヘルプデスクを運営し、教員の負担軽減を図る。	A. 全市立学校に配置されたICT支援員について、効果的な利活用方法を学校に周知する。	教育指導課	ICT支援員の具体的な支援の内容がわかる学校支援事例集を作成し発信する。	継続	□ICT支援員の効果的な活用	・サポートサイトに事例集の掲載や支援内容の確認して周知を図った。	◎

		B. 教員の負担軽減のため、GIGAスクール運営支援センターと同等の機能を有する学校向けヘルプデスク（GIGAスクール端末運用業務ヘルプデスク）を運営する。	教育指導課	GIGAスクール端末運用業務ヘルプデスクの安定的な運営を行う。	継続	—	・GIGAスクール端末の不具合などに速やかに対応し、教員の業務負担軽減の運営を行った。	◎
基本方針3 ICTを活用するための環境整備								
3—(1) 安全・安心なICT環境の構築								
3—(1)—① 1人1台端末等活用のための環境整備	全市立学校に整備した児童生徒用及び教員用1人1台端末について、故障分の補充等により維持を続けていく。また、学習者用・指導者用デジタル教科書等について効果検証を行いながら、今後の整備の在り方を検討する。	A. 回線がひっ迫することのないよう、各学校での回線利用状況を確認しながら、必要に応じて通信環境の増強等を検討する。	教育指導課	・全体的なネットワーク回線の強化を検討する。 ・定期的なネットワーク調査を検討する。	新規	□定期的なネットワーク測定と報告	①光回線の再構築を行い、全体的な強化を実施。 ②抽出した56校について調査。10月からはRPAにより自動測定。11月からは全校測定開始。	◎
		B. 児童生徒用及び教員用1人1台端末について、安定的な稼働に向けた、故障分の補充等や更新を実施する。	教育指導課	令和7、8年度の1人1台端末更新に向けて準備を進める。	新規	—	・令和7～9年度の更新計画を立て、令和7・8年度端末更新分について予算要求を行った。	○
		C. コンピュータ室としてのニーズが終了した後の活用は、各校の事情に合わせて検討する。	教育指導課 大型提示装置 ★教育センター STEAM Lab	・STEAM Lab実証研究での成果を発信しながら、今後のコンピュータ室の在り方について検討する。 ・大型提示装置について検討する。	拡充	—	・中山中学校と川平小学校でSTEAM Labの機器を活用して2年間で全ての機材を活用した実証研究を進めることができた。コンピュータ室の利活用については、今後さらに検討が必要である。	○
		D. 実証事業や研究の成果及び、整備等の効果検証をしつつ、より効果的な活用に向けた整備の在り方等を検討する。	教育指導課 教育センター		継続	□指導者用・学習者用デジタル教科書の活用推進	デジタル教材を効果的に活用するために学習効果が高まる大型提示装置について企業と連携して中学校で検証している。次年度に市内中学校に導入できるように検討している。	○
3—(1)—② デジタル教材等の整備	MEXCBTやデジタル化された副読本の整備を進めるとともに、先端技術の活用に関する研究を進める。	A. デジタル化された副読本の整備を進めるとともに、先端技術の活用に関する研究を行う。	教育指導課 教育センター	仙台版防災教育副読本の効果的な利用の事例を収集する。	継続	□仙台版防災教育副読本WebBookの活用（教育センターWebページに掲載）	・悉皆の仙台版防災研修を実施やweb版を活用した授業実践例を発信していく。	◎
3—(1)—③ 教育データの利活用、教育DXの推進	教育現場における学習者や教育者の日々の学習や実践の改善に資する教育データ利活用についての研究を進める。また、学習eポータルやMEXCBTによるCBTで取得できるデータの利活用、キャリアパスポートの利活用や電子化に関する検討も併せて進める。	A. 教育現場における学習者や教育者の日々の学習や実践の改善に資する教育データ利活用（指導技術の可視化等を含む）についての研究を行う。	教育指導課 教育センター	デジタルドリルの学習ログの活用やダッシュボードの導入を検討する。	新規	□ダッシュボードの積極的な活用	・校務支援システムにダッシュボード機能を追加しテスト期間として運用している。また、学習ログの活用方法の研修を実施した。 ・学校情報化研究委員会教育データ利活用部会にてnavimaの学習データの活用について研究、発信していく。	○
3—(1)—④ 個人情報保護等	情報管理指針を毎年改訂し各学校に周知するとともに、学校へセキュリティに関する支援をしていく。	A. 各学校へセキュリティに関する最新の情報提供や研修等の支援を行う。	教育指導課	情報管理指針の改訂とセキュリティ研修を行う。	継続	□情報管理指針の内容について校内周知	・学校教育情報セキュリティシステム担当者に対して学校情報セキュリティ研修を実施した。	◎
3—(1)—⑤ 著作権への対応	授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）より許諾を受け、教員が他者の著作物を円滑に利用できるようにしていく。	A. 著作権に関する最新の情報提供や研修等の支援を行う。	教育指導課	市立学校へ著作権に関する情報提供等を実施する。	継続		・授業目的公衆送信に関する情報提供を通して、著作権に関する情報提供を行った。	◎

基本方針4 学校情報化の推進とICT活用の推進体制構築									
4－(1) 学校の情報化の推進									
4－(1)－① 情報化による校務効率化	校務支援システムの利活用による働き方改革を推進するため、適宜システム改修を行う。学校と家庭との連絡機能の検討や、学校評価アンケート等のアンケートのデジタル化等による教員の事務負担軽減を図る。	A. 働き方改革を推進するため、校務支援システム等の利活用を検討する。	教育指導課	・保護者連絡ツールの効果的な活用について事例を紹介する。 ・自動集計システムの効果的な活用について周知する。	新規	☐ 保護者連絡ツールの積極的な活用 ☐ 自動集計システムの効果的な活用	・活用状況アンケートで実態把握。活用状況に応じたサポート・助言。上位ソフトの検証や実施。		◎
4－(2) 教育の情報化に関する推進体制									
4－(2)－① 学習の継続的な支援等のための体制の整備	教育の情報化を推進するため、教育委員会は本計画をもとに、全市的な環境整備等に取り組む。また、学校はそれぞれの状況に応じて、本計画を学校経営に取り入れ、各教科等での学習活動に取り組む。	A. 学校の情報化の推進に向け、仙台市GIGAスクール推進協議会の助言を受けながら、教育の情報化における取組等について検討し、各学校にその取組等を周知する。	教育指導課 教育センター	教育の情報化における取組等について検討し、各学校にその取組等を周知する。	継続	☐ 教育の情報化における取組の実践	・学校情報化研究委員会での研究成果発表、発信をおこなったり、情報活用能力育成につながる教材の配付、周知を行った。		◎
		B. 本計画を学校経営に取り入れ、各教科等での学習活動で実施する。	教育指導課	推進計画を踏まえた学校経営に関する校長研修を実施する。	継続	☐ 研修内容の校内伝講	・校長研修を実施し、GIGA推進の管理職としての意識を高めた。		◎
4－(2)－② 調査研究及び情報発信	端末利活用の取組事例等に関する情報を収集し、その事例等について情報発信し、各学校が参考にできるようにする。	A. 先進的な研究や国の事業へ積極的に参加し、仙台GIGAスクールサポートサイト内において、その成果や事例等について情報発信し、各学校が参考にできるようにする。	教育指導課 教育センター	仙台GIGAスクールサポートサイト内において、先進的な研究や国の事業の成果や効果的な事例等について全校に情報発信する。	継続	☐ 仙台GIGAスクールサポートサイトの積極的な活用	・サポートサイトにICT機器活用事例集を掲載した。		○
4－(2)－③ 地域、大学や民間事業者等との連携	市内教育施設との連携や地域の大学や民間事業者など、地域の力を学校の中に取り込み、学校をサポートする体制を検討・実施していく。	A. 市内教育施設との連携や地域の大学や民間事業者など、地域の力を学校の中に取り込み、学校をサポートする体制を検討・実施する。	教育指導課 教育センター	市内教育施設との連携や学校をサポートする体制の事例を収集する。	継続		・学校情報化研究委員会において、教育データの利活用、情報リテラシーに関する実践事例を提供した。		◎
4－(2)－④ 市民の理解と関心を高める取組	仙台GIGAスクールサポートサイト等の更新を図りながら、端末利活用に向けた種々の情報提供を行う。	A. 仙台GIGAスクールサポートサイトや、教育センターのWebページで、利活用に向けた情報提供をする。	教育指導課 教育センター	保護者等のニーズを定期的に収集し、仙台GIGAスクールサポートサイト等を更新する。	継続	☐ 仙台GIGAスクールサポートサイトの校内や保護者への周知	・GIGAスクールに関する保護者アンケートを実施。ニーズを把握し、関係課および導入業者等と共有・連携を図った。		○
		B. 仙台市教育委員会が主催や後援する学校教育の情報化等に関する理解と関心を深めるための市民公開講座等を開催する。	教育指導課 教育センター	市政出前講座の申込を随時受け付け、要望に対応する。	新規		・大学と協働で「親子で学ぶ情報リテラシー教室」を月1回実施。		○